

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 14 日現在

機関番号：53101
 研究種目：基盤研究 C
 研究期間：2009～2012
 課題番号：21530192
 研究課題名（和文） ビアトリス・ウェブの福祉経済学とフェミニズム
 研究課題名（英文） Welfare Economics and Feminism of Beatrice Webb
 研究代表者
 佐藤 公俊（SATO KIMITOSHI）
 長岡工業高等専門学校・一般教育科・教授
 研究者番号：00178716

研究成果の概要（和文）：

1886 年の若きビアトリス・ポッターの経済学観から、経験を経て成熟した 1926 年のビアトリスの学問の方法への発展を対象として彼女の福祉経済学とフェミニズムを分析して、以下の成果を得た。(1) 1880 年代の彼女の社会的経済学の方法の社会進化論的性格を確認し分析した。(2) 1897 年の『産業民主制論』のナショナル・ミニマムの男性労働組合中心の性格を指摘して位置づけた。(3) 1900 年代サフラジズムを受容し、1919 年の戦時内閣委員会報告書の「マイノリティ・レポート」で彼女が男女平等賃金論と家族的生産様式での家事労働と養育労働を強調したことへのフェミニスト賃金論の影響を分析した。

研究成果の概要（英文）：

The main object of this research is the change of the Economic method of Beatrice Potter Webb from 1886 to 1926. The results of research are following that first the importance of the Socio-Economic character of her sociological and economic studies, second the point out of the character and centralism of labor union of men of National Minimum in *Industrial Democracy* and lastly pointing out of the influence of her acceptance of feminism in 1900's on her wage theory and her emphasizing on housekeeping labor and nursing labor in family labor in "Minority Report" in 1919.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 2009 年度 | 1,000,000 | 300,000 | 1,300,000 |
| 2010 年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 2011 年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 2012 年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,100,000 | 930,000 | 4,030,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済学説・経済思想

キーワード：経済学説、経済思想、社会思想

1. 研究開始当初の背景

著名なイギリスの社会改革家で社会調査の専門家のウェッブ夫妻の功績は、日本でも顕著なものであるが、夫のシドニーはともかく、夫人のビアトリス・ウェッブの経済学者としての功績、特に福祉経済学における功績は正当に評価されているとは言い難い。夫妻は、1890年代からフェビアン協会を主導して政治運動に貢献し、第1次大戦後1920年代政権を取った労働党の形成とフェビアン協会の理論的基礎の確立に大きな貢献をしてきたのであるが、ビアトリスの福祉経済学的な貢献は評価される余地があるのである。

従来ビアトリスの功績としては、社会改革の議論や社会調査の業績が主に評価されてきて、彼女の福祉経済学は、評価されることが少なく、ほとんど研究されてこなかった。しかし、1926年出版の彼女の自叙伝 *My Apprenticeship* 『私の修業時代』の付録としてリライトされた2論文“The History of English Economics” (1886) と “The Value Theory of Karl Marx” (1887) からの1920年代の彼女の理論的進化から見て、また、この自叙伝の本文の叙述からも、福祉国家論と「社会学的経済学」を基礎として、彼女の福祉経済学は1920年代当時までにおおむね骨格が完成していたといえるのである。

本研究では1886年頃から1926年までのビアトリスの経済学や福祉政策の研究の推移における里程碑を検討した。彼女は1886年の草稿である“The History of English Economics”論文において古典派経済学を批判してマーシャル経済学を採用し、1890年代には協同組合運動を研究した。ウェッブ夫妻の *Industrial Democracy* 『産業民主制論』では男性労働組合主体のナショナル・ミニマムが提起された。ビアトリス自身は1910年代に女性賃金論争に参加し、1819年の二度目のマイノリティ・レポートでは男女平等のナショナル・ミニマムとしての男女平等賃金論と家族手当の主張をした。それらを経て、夫妻は1920年に *A Constitution for the Socialist Commonwealth of Great Britain* 『イギリス社会主義共和国連邦の憲制』を出版し、福祉国家体制を論じて、英国の進む道を指し示したのである。

2. 研究の目的

ウェッブ夫妻には、市場経済中心主義的な経済理論を出版したことこそないが、他の分野での多数の著作の中で、彼らは独自の福祉経済学観や理論を示している。ウェッブ夫妻の福祉経済学観の形成を把握し、それを経済

学説史的に位置づけること、及び社会システムにおける経済領域構造として位置づけることが、研究責任者の本研究を含む研究計画の一貫した目的である。

特に、本研究の前半ではビアトリスの結婚前のビアトリス・ポッター時代の言説に焦点を当てる。ここでは、後のウェッブ夫妻の福祉経済学観の基礎となった、ビアトリス自身の社会理論的経済学の形成過程を確認して検討し、その背景としてのアルフレッド・マーシャルやイギリス歴史学派の影響、および、19世紀末から20世紀はじめにかけてイギリスのミドルクラスで論争となった、女性参政権運動（サフラジズム）を中心とするフェミニズムの言説状況の影響と彼女の対応を考察してゆく。

こうした1886年頃から1926年までのビアトリスの福祉経済学や福祉政策の研究の発展過程でのトピックは以下のようである。

(1) 1880年代: 経済学の修行時代（社会調査の修行時代でもある）、ビアトリスはコント、スペンサー、マーシャルの方法を学び、『資本論』を読んでマルクスの価値論を批判した。

(2) 1890年代前半: 彼女は自立した研究者として協同組合運動を研究した。1890年代後半から1900年代にかけて、結婚相手のシドニー・ウェッブとのパートナーシップで共同で労働組合運動を研究し政治活動と社会調査を行った。

(3) この時期、夫妻は『産業民主制論』を1897年に出版して、ナショナル・ミニマムという福祉国家の政策基準を提案した。

(4) 1900年代: 夫妻は救貧法を廃止しナショナル・ミニマムを実現する福祉国家成立を目的に国民的運動を提起して指導したが、思うような成果を上げることはできなかった。

(5) 同時期に、ビアトリスはフェミニズムを受容して、女性参政権論者（サフラジスト）と政治運動で共闘していった。

(6) 1910年代: ビアトリスは評価の確立した研究者として、女性の賃金の研究を行い、男女平等の賃金を求めて、女性運動の指導者たちと福祉政策の論争をした。

(7) 1919年: ビアトリスは女性の産業労働の状況についての戦時内閣委員会報告書 *Women in Industry* の「マイノリティ・レポート」部分を執筆した。

(8) 1920年代: ビアトリスは福祉国家についてのシドニーとの共同研究の集大成として『イギリス社会主義共和国連邦の憲制』において福祉国家体制を論じた。

これらのビアトリス研究のトピックから理論的位置づけ、および、フェミニズムの受容とそれ以後の影響を考慮して、(1)、(3)、

(5)、(7)を対象に調査し分析した。

3. 研究の方法

平成21年度から24年度の各年度に共通したこととして、研究代表者の佐藤は長岡から出張し、大原社会問題研究所にて関係資料を収集した。また、東京の武蔵大学経済学史研究会と東京の社会理論学会の研究会において、これまで及び、当年度収集した資料に関して、年数回報告し、出席の経済学説の専門家から有益なコメントを得た。

平成22年度と24年度に、佐藤は経済理論学会に参加して、本研究に関する学会報告をおこなった。同じく、22年度と24年度に渡英してCambridge University Library, Marshall Library, ロンドン政治経済学院(LSE)のLibraryおよび、Women's Libraryその他にて資料を収集した。

(1) 平成21年度の調査研究の概要

- ①9月中の10日程度の日程で、佐藤はイギリスに調査に行き、Cambridge University Library, Marshall Library, ロンドン政治経済学院(LSE)のLibraryおよび、Women's Libraryその他にてWebb関係資料の収集調査を行った。
- ②「ビアトリス・ポッターの福祉経済学」を社会理論学会の研究会で報告した。
- ③「ビアトリス・ポッターの経済学とフェミニズム」を仙台経済学研究会で報告した。
- ④「ビアトリス・ポッターの社会学的経済学の歴史的方法—生理学的方法から進化論的方法へ—」を執筆し『長岡工業高等専門学校研究紀要』第45巻(2009年11月)に掲載された。
- ⑤「ビアトリス・ポッターとハーバート・スペンサー」を執筆し、栗木安延記念論文集『危機の時代を視る—現状・歴史・思想』に所収となった。

(2) 平成22年度の調査研究の概要

- ①経済理論学会にて「ビアトリス・ウェップのフェミニズムと賃金論」を報告した。
- ②「ビアトリス・ポッターの1886年論文 The History of English Economics の原稿のトランスクリプションと解説(1)」を執筆し、『長岡工業高等専門学校研究紀要』第46巻(2010年11月)に掲載された。

(3) 平成23年度の調査研究の概要

平成23年度では、佐藤公俊は研究テーマのビアトリス・ウェップの福祉経済学とフェ

ミニズムのうち、彼女のフェミニズムについての研究と翻訳、および、福祉経済学研究の関連テーマの研究を行った。これらの研究と翻訳は、ビアトリスのフェミニズムのフェビアン社会主義的性格と19世紀英国の中産階級的性格を明らかにするものであり、ビアトリスの思想研究に新たな観点をもたらすものである。平成23年度の研究の成果は以下のとおりである。

- ①ビアトリス・ウェップのフェミニズムと賃金論について、櫻井研究会において3回の連続報告をおこなった。
- ②「神谷信用組合と産業組合—高橋九郎の挑戦とウェップ夫妻の長岡調査、日本の農協の源流—」(『長岡工業高等専門学校研究紀要』第46巻所収)について、ビアトリス・ウェップ研究会で報告した。
- ③「ビアトリス・ポッターの1886年論文 The History of English Economics の原稿のトランスクリプションと解説(上)」(『長岡工業高等専門学校研究紀要』第46巻)に続く、(下)の部分の原稿を作成した。
- ④戦時内閣委員会の報告書 *WOMEN IN INDUSTRY* (HIS MAJESTY'S STATIONERY OFFICE, REPORT OF THE WAR CABINET COMMITTEE ON WOMEN IN INDUSTRY, 1919) のビアトリス・ウェップ単独執筆部分の「マイノリティ・レポート」の翻訳をビアトリス・ウェップ研究会でおこなった。

(4) 平成24年度の調査研究の概要

- ①本研究の成果の一部として、共著で清水敦、櫻井毅編著『ヴィクトリア時代におけるフェミニズムの勃興と経済学』をお茶の水書房から出版した。その第4章として単著「ビアトリス・ウェップのフェミニズムと賃金論」を執筆した。そこでは、ビアトリス・ウェップのサフラジズムへの態度の変更の意味、『産業民主政論』のナショナル・ミニマムの男性労働組合中心性、および、ビアトリスの「マイノリティ・レポート」における「同一労働同一賃金」の表現批判と家族手当の論点を検討した。
- ②経済理論学会にて「ビアトリス・ウェップのフェミニズムとその受容」を報告した。
- ③イギリスに調査に行き、ロンドン政治経済学院(LSE)のLibraryおよび、Women's Libraryその他にてWebb関係資料の収集調査を行った。
- ④「ビアトリス・ポッターの1886年論文 The History of English Economics の原稿のトランスクリプションと解説(2)」を執筆し、『長岡工業高等専門学校研究紀要』第48巻(2012年11月)に掲載された。

4. 研究成果

本研究期間で得ることのできた研究成果は次の諸点である。詳しくは以下で見る。

(1) ピアトリスの社会学的経済学の方法の社会経済学的性格の意義の把握

(2) 『産業民主制論』のナショナル・ミニマムの男性労働者中心的性格の指摘と意味の把握

(3) 1919年の彼女の「マイノリティ・レポート」の男女平等の賃金論の主張に対するフェミニズムを受容したことの影響

(4) ピアトリスによる家族労働のうちの家事労働と養育労働の強調と、政府からの福祉的手当ての強調との意味

(1) ピアトリスの社会学的経済学の方法の社会経済学的性格の意義について。

研究責任者は、いくつかの論考で 1886 年から 1920 年代までのピアトリスの福祉経済学研究の大筋を明らかにした。つまり、ピアトリス・ウェッブの経済理論の特質を市場経済に限られない福祉経済や社会経済を捉えるもので、社会システム論の労働分析の嚆矢となると把握した。そうした認識に基づき、ピアトリスの方法的指摘が、進化する社会システムの研究方法と評価した。

次に、1886年草稿でのピアトリスの「社会病理学の研究を含ませる経済学の領域について」の「定義」と、「機能的適応」を軸とした社会進化論の提起は、進化する社会システムの研究方法の先駆的指摘である点を確認した。それは、ピアトリスが、コントの社会学からの社会「領域」の分析をスペンサーから受け継いだ社会有機体の進化論的方法でまとめたものと評価でき、その背景の理念はコレクティブ主義的社会主義としてのフェビアン主義、および協同組合主義の観点と評価できるものである。また、それは社会病理学と進化の観点を含む生物学的方法でもある。

さらに、フェミニズムとの関係で、ピアトリスやその後のウェッブ夫妻の経済思想とサフラジズム（当時の婦人参政権運動）のフェミニズムとの関係を示す言説を考察して、そこに意味されるケア労働を含む家事労働からなる家族経済を抽出した。それはまた、それを含む社会システムにおける経済労働領域システムの関係構造を構想するものなのである。

最後に、ピアトリスの学術的著作の社会システムの進化論的観点を明らかにした。それは経済学の領域を市場から外部に、人間・生活・社会へ開いてゆくと捕らえる認識であり、進化の観点を有する社会生理学／病理学を含む生理学的方法から、複数の生産様式が進

化しつつ相関的に社会を形成するとする認識であり、また、両者が結びついて新たな経済学の方角を示すものであるからなのである。

(2) 『産業民主制論』のナショナル・ミニマムの男性労働者中心的性格の指摘と意味。

研究責任者は「ピアトリス・ウェッブのフェミニズムと賃金論」を、共著清水敦、櫻井毅編著『ヴィクトリア時代におけるフェミニズムの勃興と経済学』（お茶の水書房、2011刊）の第4章として執筆した。この論文で、ピアトリスのフェミニズムの変化、および、ナショナル・ミニマム論、さらに、女性賃金論と家族手当論の展開を把握した。ピアトリスのフェミニズム受容の影響による福祉経済学の変化について、今まで見逃されてきた新たな点として、『産業民主制論』のナショナル・ミニマムの男性労働者・労働組合中心的性格から男女平等のナショナル・ミニマムへの移行として、新たな問題を提起した。

(3) 1919年の彼女の「マイノリティ・レポート」の賃金論の男女平等の主張に対するフェミニズムを受容したことの影響について。

研究責任者は、1886年から1920年代までのピアトリスの福祉経済学研究の大筋を明らかにして、さらに、ピアトリスフェミニズムとの関係について、その後のウェッブ夫妻の経済思想とフェミニズム（当時の婦人参政権運動）との関係を示す言説を考察した。

研究テーマのピアトリス・ウェッブの福祉経済学とフェミニズムのうち、彼女のフェミニズムについての研究と翻訳、および、福祉経済学研究の関連テーマの研究を行った。これらの研究と翻訳は、ピアトリスのフェミニズムのフェビアン社会主義的性格と19世紀英国の中産階級的性格を明らかにするものであり、ピアトリスの思想研究に新たな観点をもたらすものである。

(4) ピアトリスによる家族労働のうちの家事労働と養育労働の強調と、政府からの福祉的手当ての強調との意味について。

研究責任者は、ピアトリスによる家族労働のうちの家事労働と養育労働の強調と、政府からの福祉的手当ての強調との関連と意義を把握した。ケア労働と養育労働を含む家事労働からなる家族的生産関係を抽出した。それはまた、それを含む社会システムにおける経済労働領域システムの関係構造を構想する、先駆的なものである。

○明らかになった今後の研究の課題

①ビアトリス・ウェッブのフェミニズムについて、1910年代の女性の賃金についての論争を検討が必要である。

②ビアトリス・ウェッブの福祉経済学の展開について、1880年代の経済学研究と社会学的経済学についての彼女の把握をまとめて、ビアトリス・ウェッブの福祉経済学の形成として論ずる必要がある。

③ビアトリス・ウェッブの1890年代の協同組合研究についてさらに検討してゆく必要がある。

④ビアトリスが1890年代に分析しているロバート・オウエンの思想について、ビアトリスと同時代のオーエン主義者の動向の調査のため、アメリカのニューハーモニーを訪問して調査する必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

佐藤公俊「ビアトリス・ポッターの社会学的経済学の歴史的方法－生理学的方法から進化論的方法へ」『長岡工業高等専門学校研究紀要』 査読有、45巻、2009、p.7-17

佐藤公俊「ビアトリス・ポッターとハーバート・スペンサー」、『危機の時代を観る』社会評論社(2010年6月)368~406頁

佐藤公俊「ビアトリス・ポッターの1886年論文 The History of English Economics の原稿のトランスクリプションと解説(1)」『長岡工業高等専門学校研究紀要』第46巻(2010年11月)7~17頁(査読あり)

佐藤公俊「ビアトリス・ポッター・ウェッブの社会学的経済学(社会経済学)の領域と方法、及び、進化論的側面の検討」『社会理論研究』社会理論学会(2011年11月)

佐藤公俊「ビアトリス・ウェッブのフェミニズムとその受容」経済理論学会ホームページ (<http://jspe.gr.jp/60-2012>)

佐藤公俊「ビアトリス・ポッターの1886年論文 The History of English Economics の原稿のトランスクリプションと解説(2)」『長岡工業高等専門学校研究紀要』第48巻(2012年11月)(査読あり)

[学会発表] (計5件)

佐藤公俊、「ビアトリス・ポッターの福祉経

済学」、社会理論学会研究会、2009年3月14日、中野勤労会館

佐藤公俊、「ビアトリス・ポッターの経済学とフェミニズム」仙台経済学研究会、2009年8月22日、東北大学経済学部

佐藤公俊「ビアトリス・ウェッブのフェミニズムと賃金論」経済理論学会、2010年10月23日、関西大学経済学部

佐藤公俊、「ビアトリス・ウェッブのフェミニズムと賃金論」、櫻井経済学研究会、2011年8月18日、松本市松本ホテル花月

佐藤公俊「ビアトリス・ウェッブのフェミニズムとその受容」経済理論学会、2012年10月6日、愛媛大学経済学部

[図書] (計2件)

佐藤公俊 他 共著、社会評論社、『危機の時代を視る-現状・歴史・思想-栗木安延記念論文集 (Die Festschrift für Kuriki Yasunobu)』2010、411頁

清水敦、櫻井毅編著、お茶の水書房、『ヴィクトリア時代におけるフェミニズムの勃興と経済学』2012、271頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 公俊 (SATO H KIMITOSHI)

長岡工業高等専門学校・一般教育科

・教授

研究者番号：00178716